


本会記事
■広報委員会だより
「小学生のための夏休み『自由研究』教室」
（日本大学理工学部）での出展

平成 29 年 7 月 22 日（土）に日本大学理工学部駿河台校舎において開催された「小学生のための夏休み『自由研究』教室」に出展しました。恒例となったこのイベントは今年で 10 回目となり、本学会は、初回から演示実験協力の形で、「プラズマであそぼう」のコーナーを担当しています（図 1；コーナー全景）。当日は約 500 名の親子連れが来場し、日本大学理工学部の各学科や学生サークル、附属高校による自由研究課題に取り組み、また本学会が出展したコーナーの演示実験を楽しんでいました。

本学会によるコーナーでは、広報委員会が作成したプラズマに関するクイズやパネル、各委員が持ち寄ったプラズマや関連技術を分かりやすく紹介する演示実験装置などが並べられ、どの展示にも子供たちは大変興味を示していました。広報委員会からは、プラズマを紹介するパネルのほか、プラズマや核融合、磁石などに関するクイズを出展しました。クイズは、楽しみながらプラズマについて知ってもらえるように学会のパンフレットと対応させ、正解するとスタンプがもらえる形式になっており、例年、子どもたちの人気を集めています（図 2）。核融合科学研究所からは超伝導磁気浮上列車の模型（図 3）や気圧と放電の関係を体験する注射器火花放電装置、LHD の AR（Augmented Reality：拡張現実）モデルなどをご提供いただきました。量子科学技術研究開発機構からは、ITER に関するパネルなどに加えジャイロトロン窓に使用されるダイヤモンドをご提供いただき、氷を

用いた演示実験によりダイヤモンドの物性について説明しました。日本大学浅井研究室からは、テスラコイルを変調させ放電音により演奏する装置や白熱電球でつくったプラズマボール、グライディングアーク、大気圧プラズマ装置など、同研究室で製作された演示実験装置が多数出展されました（図 4）。

これらの資料や展示物についてご興味のある方は広報担当理事か事務局までお問い合わせください。

なお、イベント当日は、本学会広報委員会から、浅井朋彦、浅野史朗、磯部兼嗣、久保博孝、下妻隆、畑山明聖、吉沼幹朗の 7 名が参加しました。事務局からも杉山さんが参加され、また、日本大学浅井研究室からは大学院生の石川さん、石渡さん、山田さんにもご協力をいただきました。

広報委員会では、例年、夏と冬にそれぞれ日本大学と名古屋大学において、同様の出展を行っております。本欄でも毎回紹介しておりますので、各イベントの詳細につきましては過去の記事もご参照ください。これらの活動は、本学会の会員が所属する大学等が主催する既存の科学イベントに相乗りする形で会員持ち寄りの展示を行うことにより、低コストで効率の良い広報活動を模索するものとして開始されました。会場では子どもたちの口から「プラズマ」などの言葉もよく聞かれるようになり、本学会が関係する分野に関する広報活動として、一定の効果が得られています。委員会では、今後、SNS などを利用した新たな広報活動の展開も検討しています。広報に関するアイデアや、広報すべき情報等、皆さんのご意見をぜひ委員会までお寄せください。

（広報委員会）



図1 会場の様子。



図2 クイズに挑戦のコーナー。

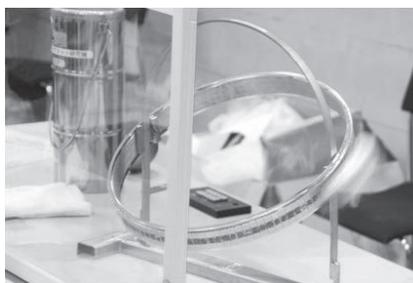


図3 超伝導磁気浮上列車の模型。

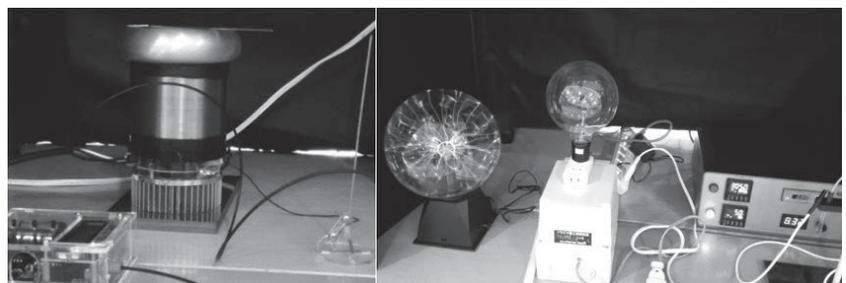


図4 左から、テスラコイルを変調させ放電音で演奏する装置、プラズマボール、大気圧プラズマ装置。